

各分野の目標達成状況＜IV教育分野＞

柱1 地域に開かれた快適で安全な学校づくり

◆主な取り組み

〔個別目標①〕児童・生徒が心身共に健康な状態で、適切な教育を受けている

(市民)

- ・児童生徒が個々の学習状況にあった指導や支援を受けました。
- ・発達障害のある児童生徒が家庭での学習や正しい生活習慣を身に付けました。

(市役所)

- ・児童生徒の学習状況にあった指導や支援を行うため、少人数指導やチームティーチング等に必要の学校補助教員を配置しました。
- ・特別な支援が必要な児童生徒の教育支援を行うため、特別支援学級等支援職員を増員し、適正に配置しました。

〔個別目標②〕学校・家庭・地域が連携し、子どもたちの社会性、人間性がはぐくまれている

(市民)

- ・地域の子どもたちが非行に走らないように声かけをし、あいさつを交わしたりしながら、互いの信頼関係を築きました。
- ・地域の事業所は職場体験学習の生徒を積極的に受け入れました。また、生徒は地域の職場で働くことの職場体験学習を通じ、働く大切さ、責任感、協調性などの社会性を身に付けました。
- ・学校評議員や地域の人々が気軽に訪問し、必要な情報等を提供するための学校づくりを支援しました。

(市役所)

- ・生徒が進路を主体的に考え、選択する能力を育成するため、市内5中学校が地域の事業所等で職場体験学習を行いました。
- ・学校運営にあたり、学校の教育目標、地域との連携の進め方等に関して、学校評議員の意見を聞くとともに、その理解や協力を得て、特色ある教育活動を積極的に展開しました。

〔個別目標③〕バランスのとれた給食や食育の実施により、子どもたちが正しい食習慣を身につけ健康に育っている

(市民)

- ・小中学校の保護者、PTAなどの給食の試食会を通し食生活への関心を深めました。
- ・毎月の給食献立表でバランスの良い食事のとり方、小中学校のホームページの閲覧により学校給食への理解を深めました。

IV教育分野

(市役所)

- ・小中学校の給食の時間を利用し児童生徒へ食育について指導をしました。
- ・食育について個人差を少なくするためティームティーチング授業を実施しました。
- ・食育指導の中で朝食を食べる大切さを伝えましたが、朝食を食べない児童・生徒の割合の減少にはつながりませんでした。

【個別目標④】教育を受ける環境が整備され、快適で安全な状態で児童・生徒が学習活動に取り組んでいる

(市民)

- ・児童、生徒及びPTA並びに地域住民で、学校施設及び周辺の美化環境が保たれるよう清掃活動に取り組みました。
- ・耐震補強工事及び改築工事の実施にあたり、学校行事等に不都合が生じたが、工事が順調に進むよう協力しました。

(市役所)

- ・学校設備の保守点検を行い、その結果で判明した不良箇所について、随時修繕を行いました。また、普通教室不足に対応して臨時校舎の借り上げを行ないました。
- ・耐震診断の結果に基づき、耐震不足が判明した各小中学校の校舎及び体育館について、耐震補強工事及び改築工事を実施しました。

◆主な成果

- ・中学校区を単位とした小中学校により、地域ボランティア活動やあいさつ運動などの啓発・情報交換・実践活動等を行ううえで学校、家庭、地域の連携を図ることができたこと。
- ・事業所の協力による職場体験学習において、生徒が自分自身で進路を選択する能力の育成を図ることができたこと。
- ・学校の耐震化を実施したことにより、児童・生徒が快適で安全な学習活動に取り組む環境が確保できたこと。

◆主な今後の課題

- ・学校評議員制度などの充実や地域との連携を深め、情報公開を推進し、更に開かれた学校づくりの推進が求められていること。
- ・食育や望ましい食生活について、児童・生徒に指導するのみでなく、地域へのPRも必要であること。

柱2 将来にわたって活躍できる人づくり

◆主な取り組み

【個別目標①】地域社会が教育に関心をもち、望む教育を受ける環境が整っている

(市民)

- ・教育委員会から発信される情報を得て、その活動に参加するなどして、文化的教養及び教育的効果の向上に効果のある取り組みを行いました。

(市役所)

- ・教育委員会において教育現場を訪問するなどして、教育の場を構築し、教育課題等諸問題について、迅速に対応しました。また、文化的教養の向上又は教育的効果が認められたものに、栄誉を称え広く知らせました。

【個別目標②】子どもが健やかに育つ環境が整い、人間性豊かな子どもたちが育っている

(市民)

- ・心の悩みなど自分ひとりで抱え込まず、専門の相談員に相談しました。また、いじめ・不登校問題をいじめ不登校対策協議会にて、総合的、根本的に研究しました。
- ・青少年の健全育成のために、街頭啓発を行ったり、後援会に参加しました。また、布袋・宮田・古知野南小学校の放課後子ども教室に参加しました。

(市役所)

- ・児童の悩みなどの相談や不登校児童のために、心の教室相談員の配置と、適応指導教室を開設し、指導・支援を行いました。また、いじめ・不登校対策協議会での研究結果を実践に活かしました。
- ・青少年の指導・育成等に関する調査・審議を行いました。また、小学校の余裕教室等を利用して、放課後子ども教室を実施しました。

◆主な成果

- ・教育現場の意見に基づいた議論を行うために、学校訪問や学校状況視察、他都市との意見交換をしたこと。
- ・心の相談員の配置と適応指導教室の開設により、いじめ不登校問題に対応したこと。

◆主な今後の課題

- ・学校訪問や学校状況視察、他都市との意見交換に積極的に参加し、教育現場の現状や課題を的確に把握すること。
- ・いじめ不登校問題に関しては、学校・家庭・地域住民が連携して取り組む必要性が求められていること。

柱3 生涯を通して能力を伸ばし、活かせる機会づくり

◆主な取り組み

【個別目標①】市民が、自発的な学習活動を展開し、生きがいをもった生活を送っている

(市民)

- ・PTA活動、子ども会活動などの行事において、生涯学習人材バンクを利用し、講師の依頼をしました。

(市役所)

- ・広報こうなん、ホームページによる啓発活動や公民館サークルへの登録依頼に努めましたが、生涯学習講師人材バンク登録者数の向上には繋がりませんでした。
- ・愛知江南短期大学と連携し、公開講座、公開講演会、オープンカレッジを開催しましたが、講座の受講者数の向上には繋がりませんでした。

【個別目標②】市民が身近にスポーツを楽しみ、なれ親しんでいる

(市民)

- ・土曜日・日曜日に、体育協会加盟競技団体が各種の大会を実施しました。
- ・コミュニティ・スポーツ祭に参加し、近隣の方との交流ができました。

(市役所)

- ・施設の利用について、体育協会加盟競技団体等と年間施設利用調整会議を開催し、効率的な施設の利用に努めました。
- ・魅力あるコミュニティ・スポーツ祭の開催を、実行委員会に働きかけました。

【個別目標③】男女が社会のあらゆる分野で対等なパートナーとして参画し、共にその責任を分かち合っている

(市民)

- ・男女共同参画について、理解を深める講演会等に参加し、男女共同参画都市宣言の唱和をしました。

(市役所)

- ・広報こうなん、ホームページに男女共同参画についての記事を掲載し啓発に努めました。
- ・新しい男女共同参画基本計画を策定するため、2,000人の市民にアンケート調査を実施しました。

◆主な成果

- ・市民が身近に参加できるスポーツ大会であるコミュニティ・スポーツ祭に多くの市民が参加し、地域の交流ができたこと。
- ・男女共同参画都市宣言を軸として、広く市民に男女共同参画社会の推進を啓発していくことができたこと。

◆主な今後の課題

- ・ 価値観や生活スタイルの多様化に伴い住民参加型の生涯学習活動が求められており、社会教育指導者の育成と活用が必要であること。
- ・ すべての世代に対し、生涯学習活動へ参加できるような講座、講演会を実施する必要があること。

柱4 豊かな、創造性ある文化・交流活動の充実

◆主な取り組み

【個別目標①】市民が文化芸術活動を積極的に行っている

(市民)

- ・市が主催する「文化講演会」、「武功夜話セミナー」、「民踊講習会」、「教養講座」、「美術展」への出品又は参観、文化協会主催の「文化祭」に参加しました。また、文化芸術活動を行うため、市民文化会館の会議室や大・小ホールを利用しました。
- ・公民館サークルや公民館フェスティバルに参加しました。

(市役所)

- ・市民文化講演会を大ホールで、「日本を変えた織田信長」として作家の井沢元彦氏を講師に迎え開催しました。また、民踊講習会や美術展等を開催し文化芸術にふれあう場を提供しましたが、文化芸術活動を行っている市民の割合の向上には繋がりませんでした。
- ・市民が安心して市民文化会館を利用するため、市民アンケートをとり、意見や要望を把握しました。また、運営委員会を開催し、指定管理者と事業内容などについて協議するとともに、モニタリングを実施して自己評価を行い市民サービスの向上と市民文化会館の稼働率向上に努めました。

【個別目標②】郷土の歴史・文化が正しく理解され、郷土に対する愛着や誇りを持っている

(市民)

- ・国の登録有形文化財への登録に報光寺本堂を申請し、登録されました。
- ・市が主催する歴史民俗資料館の企画展などに参加しました。また、常設展示している歴史民俗資料館を参観しました。

(市役所)

- ・多くの市民に歴史民俗資料館の展示物や文化財に関心を持っていただくため、各種企画展を開催しました。また、中学生歴史教室を開催し、中学生に江南の歴史や文化財に対する関心を深めました。

【個別目標③】世界平和の重要性が認識され、在住外国人も安心して暮らしている

(市民)

- ・市及び江南市国際交流協会が主催する国際交流事業「国際交流フェスティバル」に参加しました。

(市役所)

- ・様々な国籍の市民が共存する多文化共生社会を構築するため、国際交流フェスティバルや、国際理解講座、外国の料理教室などを市と江南市国際交流協会が連携して開催しました。

- ・ 平和の尊さ、原爆の悲惨さを広く市民に啓発するために、すいとぴあ江南、市民文化会館、市役所ロビーにおいてパネル展を開催するとともに、市立全中学校で原爆パネル展や平和朗読劇を開催しましたが、「世界平和を願うパネル展」の来場者数の向上を図ることができませんでした。

◆主な成果

- ・ 市民文化の向上を図ることを目的として芸術、文化の鑑賞、作品の発表など活動の拠点である市民文化会館を中心に事業ができたこと。
- ・ 国際交流事業については、緊急雇用創出事業を活用し、雇用相談員を雇用したことや、日本語ができない外国人に対し日本語教室を開設し、雇用を促進することができたこと。

◆主な今後の課題

- ・ 江南市国際交流協会の活動拠点「ふくらの家」が、相談などで多くの外国人が出入りし、施設自体手狭となっている。また、各種事業に対応できる支援員や相談員等の人材育成が急務となっていること。
- ・ 戦争の悲惨さや世界平和の重要性を若者に教え伝えるために、今後も全中学校での開催を実施するとともに、メディアを活用したPR活動を積極的に行う必要があること。